

エヌ・ワン・グランプリ ～投票の仕方～

【あなたの1票が王者を決める!!!!】

1. 食べたい『郷土料理』を決める。
2. 『郷土料理』を購入すると、投票券(くじ付き)がもらえます。
3. お腹がいっぱいになるまで、他の『郷土料理』も、食べて、食べて、食べまくる。
4. 持っている投票券をおいしかった『郷土料理』に投票する。まとめて投票もよし、別々に投票してもよし。
5. 多く投票された『郷土料理』が王者!!

※各店舗において、規定数販売した後は、通常販売になり投票券はもらえません。

(各店舗先着300食×2日間)

※当りが出たら投票前に景品と交換できます。

N-1 本部テントにて**投票**・交換できます。

熊谷ホルどん

満願堂(熊谷ホルどん豚究会)

【料理紹介:熊谷市】 **New!!** 自己採点欄 点

熊谷の地粉を50%使って作ったもちもちうどんと、熊谷の加工場から直接仕入れた新鮮なホルモンをいかにして、甘辛のオリジナルのタレで焼き上げた、ご飯にもおかずにもなる逸品です。



【チーム紹介】

熊谷の特産の小麦とホルモンが普及し、埼玉県から全国に広がって欲しいと思っています。熊谷市と深谷市、ともに大会を通して全国からお客さまが来て盛り上がりたて欲しいです。



カルビうどん

こだま群食類集研究会

【料理紹介:本市市】 自己採点欄 点

具材には、野菜のほか、メインである豚カルビを使用する。また「搦保一」が7歳で失明する前に見て鮮明に記憶していたという、すみれの「紫」、ほおずきの「赤」、柚子の「黄」の三色のうち、唐辛子の赤を器の中で表現させた。「搦保一」の精神と新具材が競演する、「保一ちゃんこ〜ほおずきの赤」バージョン。

【チーム紹介】

日本歴史文学の礎を築いた盲目の国学者「搦保一」の偉業の継承と、地元の食材で郷土こだまの魅力を発信するために結成された。メンバーの一人が経営するお店「ロータスワルン」でも大人気のメニューで、狙うは初優勝のみ。



モロヘイヤうどん

キャッセ羽生むびな庵

【料理紹介:羽生市】 **New!!** 自己採点欄 点

栄養豊かな極上麺! つるつると野菜と一緒に食べる麺! 地元羽生産のモロヘイヤを練り込んだうどん。モロヘイヤは、“野菜の王様”と呼ばれるほど栄養価が高く、βカロチン、カルシウム、ビタミンが豊富である。お土産用の半生うどんもある。

【チーム紹介】

今回初出場。狙うはN-1優勝! 地産地消をPRしたい一心で、地元羽生産モロヘイヤと、武蔵野台地産小麦“彩奥義(さいおうぎ)”を練り合わせたうどん作りに励んでいる。味には自信がある。モロヘイヤうどんを通じて羽生の良さを知っていただきたい。



佐野らーめん 佐野らーめん会

【料理紹介:佐野市】 **New!!** 自己採点欄 点

麺は自家製めんを使っており、のどごしのよい麺とあっさりしたしょうゆ味のスープが絶妙に麺にからみ合います。



佐野は名水にも恵まれており、スープにはもちろん、麺にも欠かせないものの一つです。

【チーム紹介】

今回参加するのは初めてですが、佐野らーめんの知名度を少しでも上げ地域活性化に役立てられれば良いと思っています。



分福茶釜のカレーつけかま玉うどん

(株)花山うどん(麺のまちうどんの里館林振興会)

【料理紹介:館林市】 **New!!** 自己採点欄 点

麺は群馬県産小麦「きぬの波」を中心に数種類の地粉を釜玉うどん用にブレンドし、モチモチ感を存分に引き出しました。群馬県ブランド「麦豚」を地元産野菜と共にじっくり煮込み、当店自慢のかつおだしのきいたつゆでカレーつけ汁に仕上げました。釜玉うどんをうまみの詰まったあったかいカレーつけ汁に絡めてお召し上がりください。



【チーム紹介】

去る9月25日に開催された「麺-1グランプリ in 館林」の準優勝の余韻が残る中で、勢いそのままに、優勝を狙いたい!



インカのめぐみ

FUKAYA サルサカーニバル

【料理紹介:ペルー】 自己採点欄 点

栄養満点で小さなお子様から大人まで食べやすいペルーの民族料理。牛乳が入りクリーミーな味わいだが、後味はさっぱりとしている。たっぷり深谷ねぎを煮込んだ、鶏や野菜のうまみが効いたスープと、うどん茶屋三男坊の手打ちうどんが見事にマッチ。地元で作られた100%地粉の相性抜群な食文化の融合作品です。

【チーム紹介】

深谷市に最も多く定住するのがペルー人。多くは日系人であり、深谷を第二の故郷として誇りに思い、ペルーの料理や文化を一人でも多くの人々に知ってもらい、身近に感じてもらうことを目的に会を結成。ラテンパワーで優勝を目指す。



武州煮ぼうとう

武州煮ぼうとう研究会

【料理紹介:深谷市】 自己採点欄 点

下茹でしない幅広の麺と、地元で採れた野菜を、ふんだんに入れて醤油味で煮込んだ、深谷地方の郷土料理。郷土の偉人「渋沢栄一」も、好んで食べた。

【チーム紹介】

郷土料理「煮ぼうとう」を普及することで地域の活性化を図ろうと、多種多様な職業に就くメンバーにより結成された。地元を代表して初回から参戦しており、現在6連覇中です。日々の味への研究や数多くのイベントへの参加により、味、技術力ともに大幅にグレードアップ。究極の味が完成しつつある。深谷上杉の末裔として「義」の赴くところ、戦場に挑む。

